

えがおプラス

生きるということ

松本市立病院外科の、依田恭介と申します。私が日々診療をしていて、よく思う・考えることを、書かせていただこうと思います。

私が医学生の時のある講義で、講師の先生が開口一番、「人間の死亡率は？」と質問されました。優秀な友人が即座に手を挙げ、「100%です！」と答えました。講師の先生から「人間は必ず死ぬ」と説明があり、ポカンと固まっていた私は、その意味をやっと理解しました。

生きる、ということに対して、人それぞれお考えがあると思います。同時に、死ぬということに対しても、様々なお考えがあると思います。しかしなかなか、最期が近い場面で、お一人お一人のお考えに沿った医療や診療を行うことが、難しい場合があります。本当にご本人にとって、今この選択はよい選択なのだろうか、と悩むことがあります。ご家族も同様に、悩んでおられる姿を目にすることが少なくありません。

それはなぜか。ご本人のお考え・お気持ちが分からないままに、ご本人が最期を迎えられることが、珍しくないからです。

生きるということは、いつか死ぬということ。

これは、老若男女、どなたにもあてはまる事と思います。

どのように生きたいかを考えるのと同じくらい、どのように最期を迎えたいかを考えることは、とても大事なことです。そして、その考えを、ご家族や身近な方にお伝えしておいたり、記録に留めておくことは、さらに大事なことです。

この文章を読んで、気分を害される方がいらっしゃいましたら、申し訳ありません。読者の方の、今後の人生をお考えになる一助になれば幸いです。

人生会議（ACP）をしてみよう

「もしものとき」に備えて、どのような医療・ケアを望むのかを、家族や身近な人、医療・介護関係者などと話し合っておく取り組みを「人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）」といいます。人生で大切にしていることは人それぞれです。あなたの気持ちを家族や信頼できる人と共有してみてはいかがでしょうか

執筆を担当してくれたのは



外科医

依田 恭介 医師

松本市立病院
日本外科学会専門医



松本市立病院

Matsumoto City Hospital

TEL.0263-92-3027（病院代表）

予約受付時間 13:30～16:30

※当日の受診相談やご予約については、常に受付しています